

2025年度 DX記者説明会

富士フィルムグループが取り組むDX

2025年9月10日

富士フィルムホールディングス株式会社

登壇者

富士フイルムホールディングス株式会社
執行役員 CDO ICT戦略部長
富士フイルム株式会社
取締役 執行役員 CDO 兼
イメージング・インフォマティクスラボ長

杉本 征剛



富士フイルム株式会社
執行役員
イメージング・インフォマティクスラボ 副ラボ長 兼
メディカルシステム開発センター IT開発グループ長 兼
画像研究グループ長

桝本 潤



アジェンダ

- 1 | 富士フィルムグループのDX
- 2 | コーポレート領域におけるAI事例
- 3 | メディカルシステム事業におけるAIの取り組み

1. 富士フィルムグループのDX ～DX戦略～

DX戦略

DXビジョンを策定し、DX基盤(製品サービスDX・業務DX・人材DX・ITインフラ)を進化させることで、グループパーカスの実現を目指す

富士フィルムグループパーカス

地球上の笑顔の回数を増やしていく。

DXビジョン

イノベーティブなお客様体験の創出と社会課題解決
収益性の高い新たなビジネスモデルの創出と飛躍的な生産性向上

ビジネスモデル変革(製品・サービスDX)

業務変革(業務DX)

DX基盤

人材育成・活用(人材DX)

デジタル基盤構築(ITインフラ)

DX推進体制

DX推進の最高意思決定機関として、CEOを議長とする「DX戦略会議」を設置
さまざまなステークホルダーと連携し、CEOが主導するグループ横断体制でDX推進を加速

All-Fujifilm DX推進プログラム ディレクター：CEO

DX戦略策定

DX戦略会議 議長：CEO 副議長：CDO

実行

事業部門

支援

コーポレート
部門
(人事・経営企画等)

ICT戦略部

イメージング・
インフォマティクス
ラボ

AI-CoE

ボトムアップ
活動

デジタル変革委員会

DX実践者コミュニティ



ステークホルダー

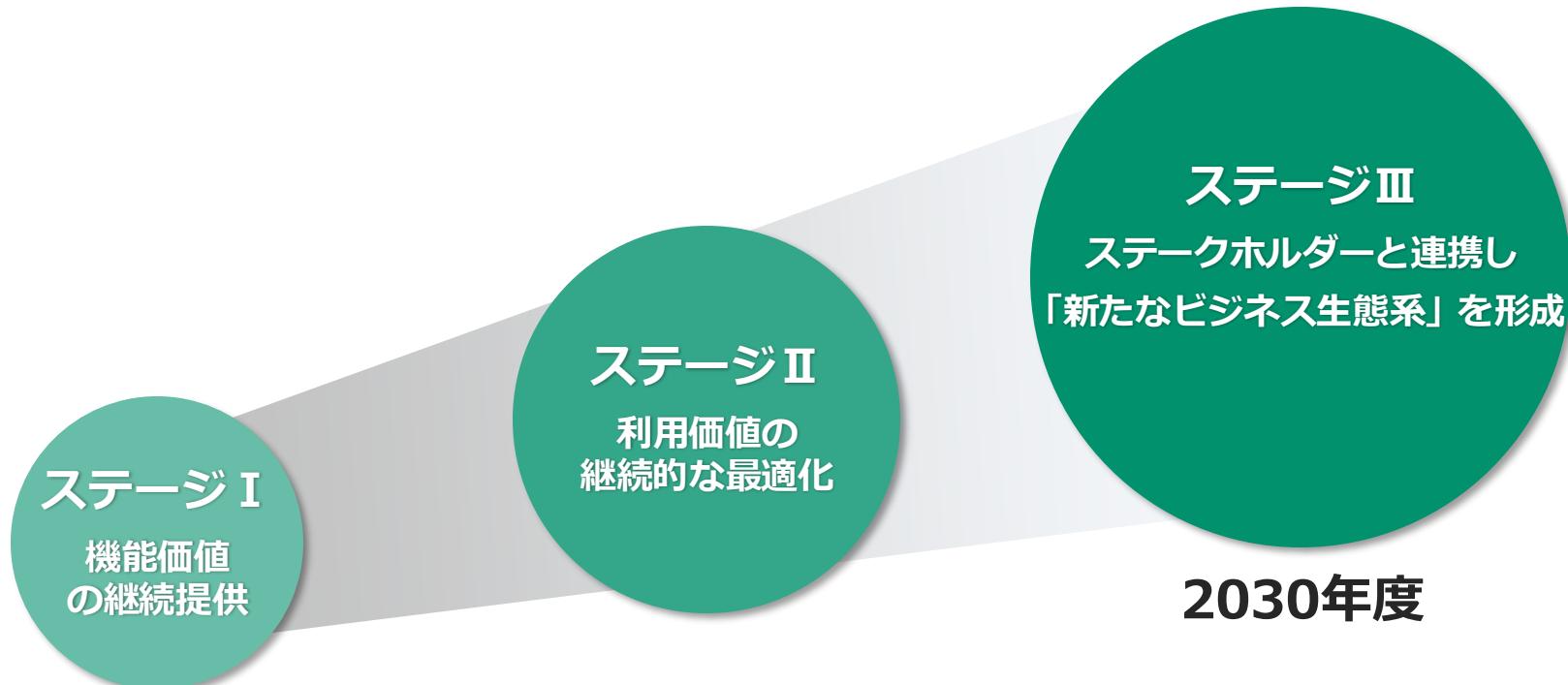
サプライヤー

協業パートナー

学術研究機関

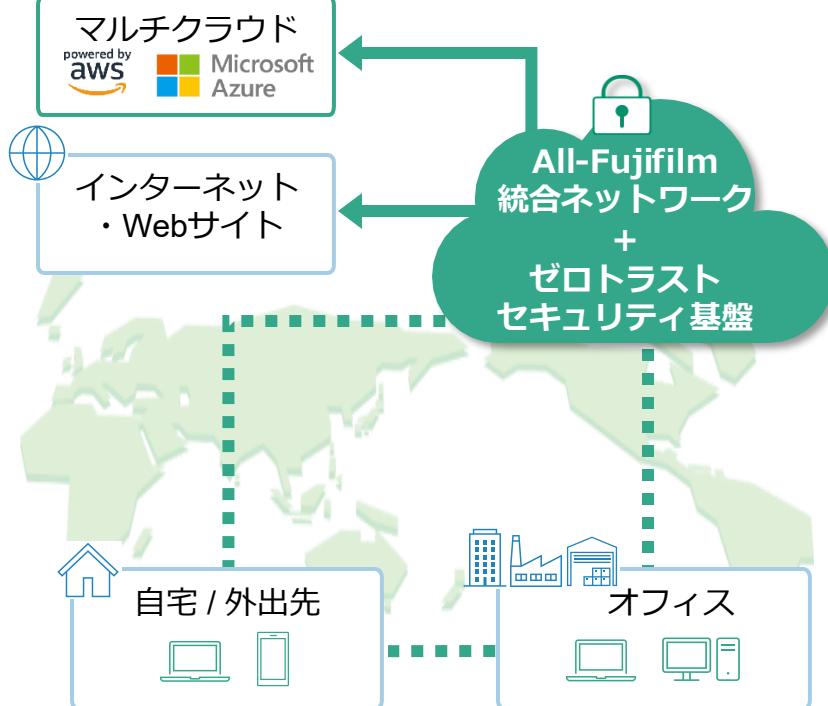
DXロードマップ

2021年に制定した「DXロードマップ」では
さまざまなステークホルダーとの連携による持続可能な社会・社会課題解決の実現を目指に
現在は多くの事業でステージⅠまたはⅡを達成、いくつかの事業でステージⅢに到達



デジタル基盤構築（ITインフラ・セキュリティ施策）

ゼロトラストの思想、クラウド志向の方針に基づきIT環境を整備、全てのITインフラ・セキュリティ施策を統一施策としてグローバル270社に展開、柔軟で強固なIT基盤を実現



ITインフラ

All-Fujifilm統合ネットワーク・ゼロトラストセキュリティ基盤

どこからでも安全に社内ネットワークにアクセス可能

次世代エンドポイントデバイス環境

いつでも、どこでも、どんなデバイスでも業務可能

全社共通クラウド基盤

全社でアーキテクチャの統一、セキュリティの標準化を実現

セキュリティ

統合 ID 管理基盤

システム利用 ID の統一、
多要素・多段階のセキュア認証

セキュリティログ分析基盤

AIにて相関分析、インシデント
を早期検知

端末挙動監視基盤

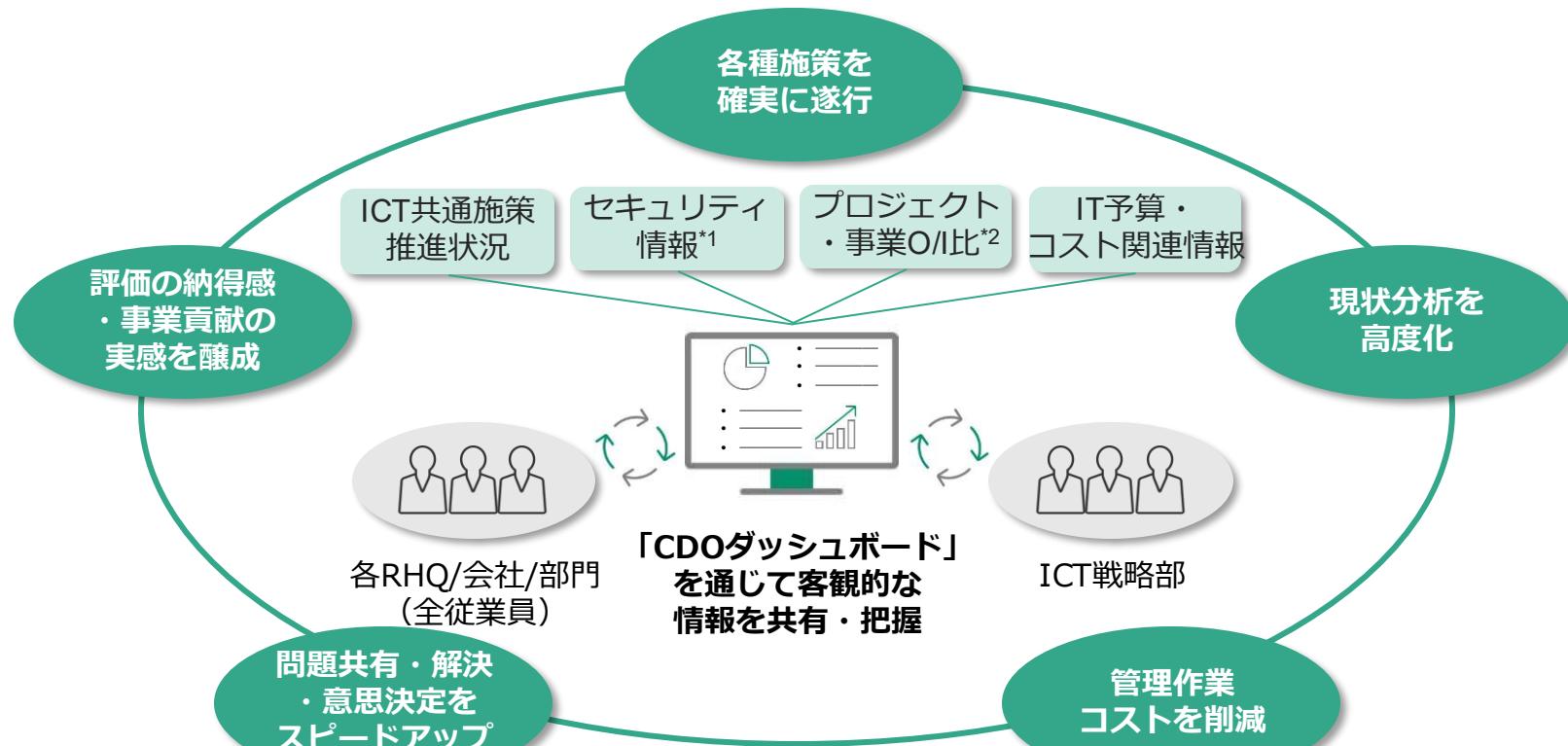
マルウェア感染デバイスを
自動遮断し拡大を防止

インシデント監視・事故対応体制

24 時間 365 日体制で監視、
早期検知

デジタル基盤構築（ITマネジメント施策「CDOダッシュボード」）New

さらなるDXの加速に向け、グループ全体のITシステムの現状やICT共通施策の推進状況、DX効果を可視化する「CDOダッシュボード」の導入を検討中、2025年度中に運用開始予定



*1 システムの脆弱性、検知した脅威に関する情報を指す

*2 ICT戦略部、及び事業部門におけるITプロジェクトの事業貢献度を定量化する指標を指す

1. 富士フィルムグループのDX ～DX人材育成戦略～

DXビジョンを支えるDX人材育成戦略

DXビジョン実現に必要なDX人材を3類型で整理し育成を強化

ハイブリッド人材がビジネスモデル/業務変革を牽引、DX活用人材が業務を効率化
これらのDX推進をIT専門人材が技術・スキルで強力に支える

DXロードマップ



ハイブリッド人材

事業部門から選抜されたDX推進リーダー

デジタルを前提とした
ビジネスモデル/業務を変革

DX活用人材

全社員が対象

ツールやデータを活用し、業務を効率化し
クリエイティブ業務にも取り組む

IT専門人材

IT部門

最先端のIT技術や
専門スキルを用いて
事業のDXを強力に支える

ハイブリッド人材とは

事業領域におけるビジネススキルとITスキルを兼ね備えた
ハイブリッド人材がDX推進をリード



- ✓ 事業領域の専門性
- ✓ 現場の課題や事業プロセスの知識・経験

- ✓ 技術の専門性
- ✓ 先端技術を効果的に活用する知識・経験

- ✓ 現場でデジタルを前提とした新たなビジネスモデルを構築できる人材

DSSを活用したDX人材の可視化と育成

DX人材のスキルと育成状況を可視化、人材配置や育成計画を最適化
スキルの定義には経産省・IPAの定めるデジタルスキル標準（DSS-P）を採用

当社のDX人材

ハイブリッド人材

事業部門から選抜されたDX推進リーダー

デジタルを前提とした
ビジネスモデル/業務を変革

DX活用人材

全社員が対象

IT専門人材

IT部門
最先端のIT技術や
専門スキルを用いて
事業のDXを強力に支える

個人のスキル 可視化のための **DSS**に基づいた アセスメント

強化すべきスキル 保有スキル

デジタルスキル標準（DSS-P）

ビジネスアーキテクト	デザイナー	データサイエンティスト	ソフトウェアエンジニア	サイバーセキュリティ
新規事業開発	サービスデザイナー	データサイエンティスト	フロントエンドエンジニア	サイバーセキュリティエンジニア
既存事業の高度化	UX/UIデザイナー	データサイエンティスト	バックエンドエンジニア	クラウドエンジニア/SE
ビジネスアーキテクト	サービスデザイナー	データサイエンティスト	データエンジニア	ファジカルコンピューティングエンジニア
社内業務効率化	ビジュアルデザイナー	データサイエンティスト	データエンジニア	サイバーセキュリティマネージャー

人材配置

最適な人材を最適なポジションに配置

育成計画

足りない人材の育成を強化

AIを活用したコーチング

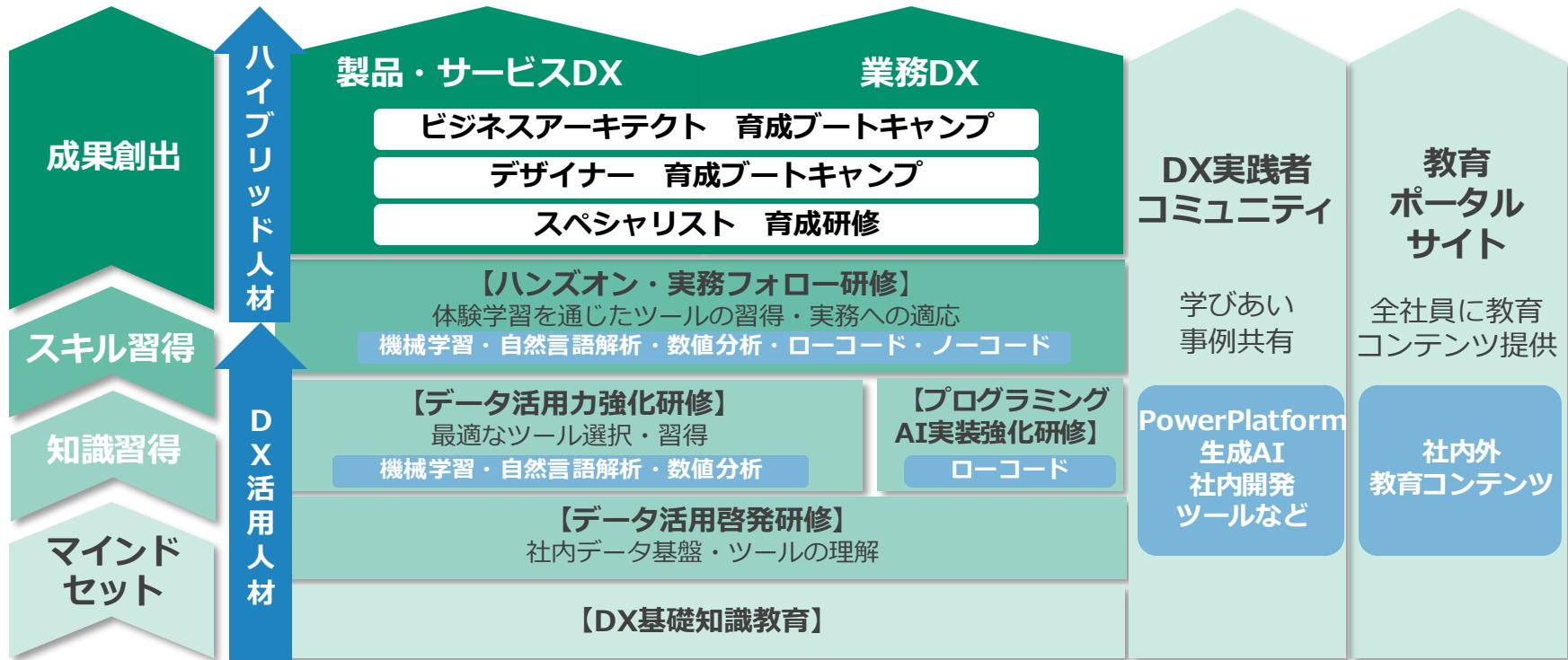
各人材が身に着けるべきスキルを提示、個人の教育を最適化

DX人材育成体系

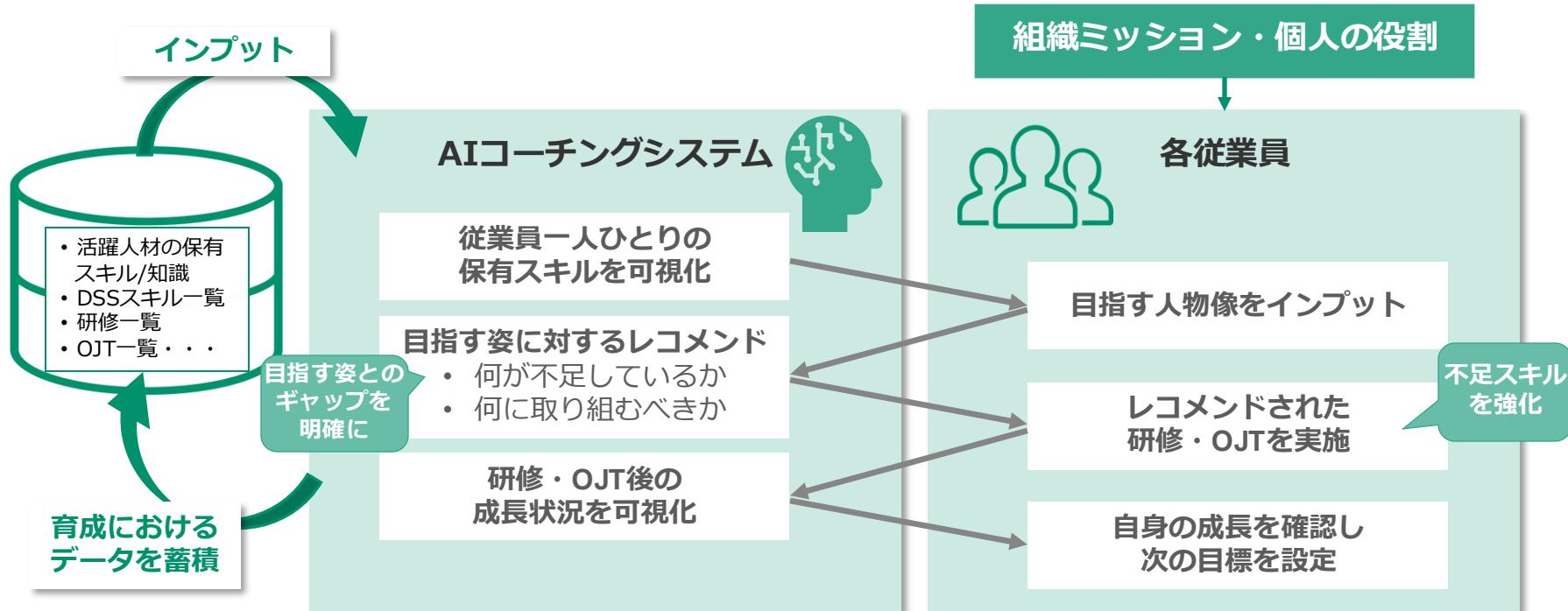
人事と連携して必要な教育・研修を実施し、DX活用人材を育成

さらなる成長を期待する人材には、実務レベルの育成を行うことで、

デジタルを前提としたビジネスモデル／業務変革を行うハイブリッド人材へと育成



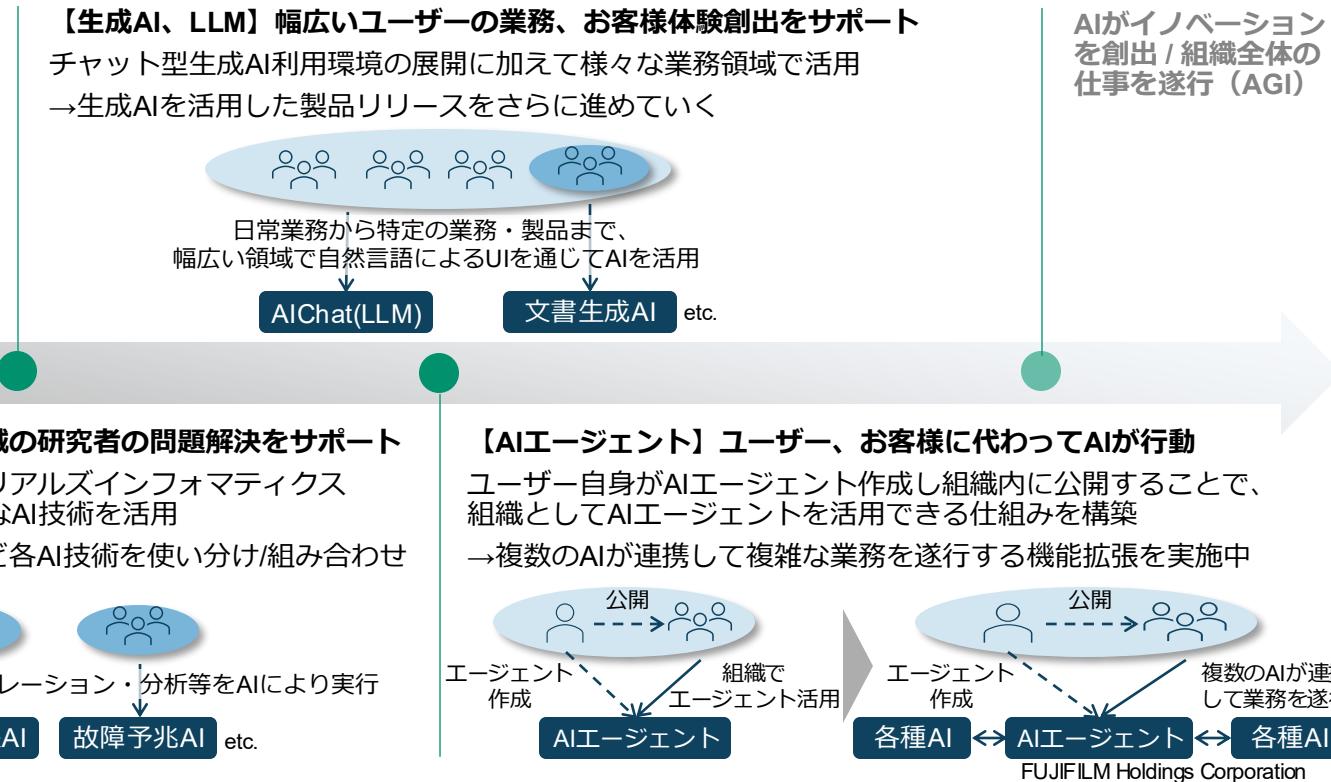
従業員一人ひとりの保有スキルを可視化、各個人に合わせて強化すべきスキルをAIコーチングシステムからレコメンドすることで、DXに関する教育を最適化



1. 富士フィルムグループのDX ～AI戦略～

富士フイルムのDXにおけるAIの位置づけ

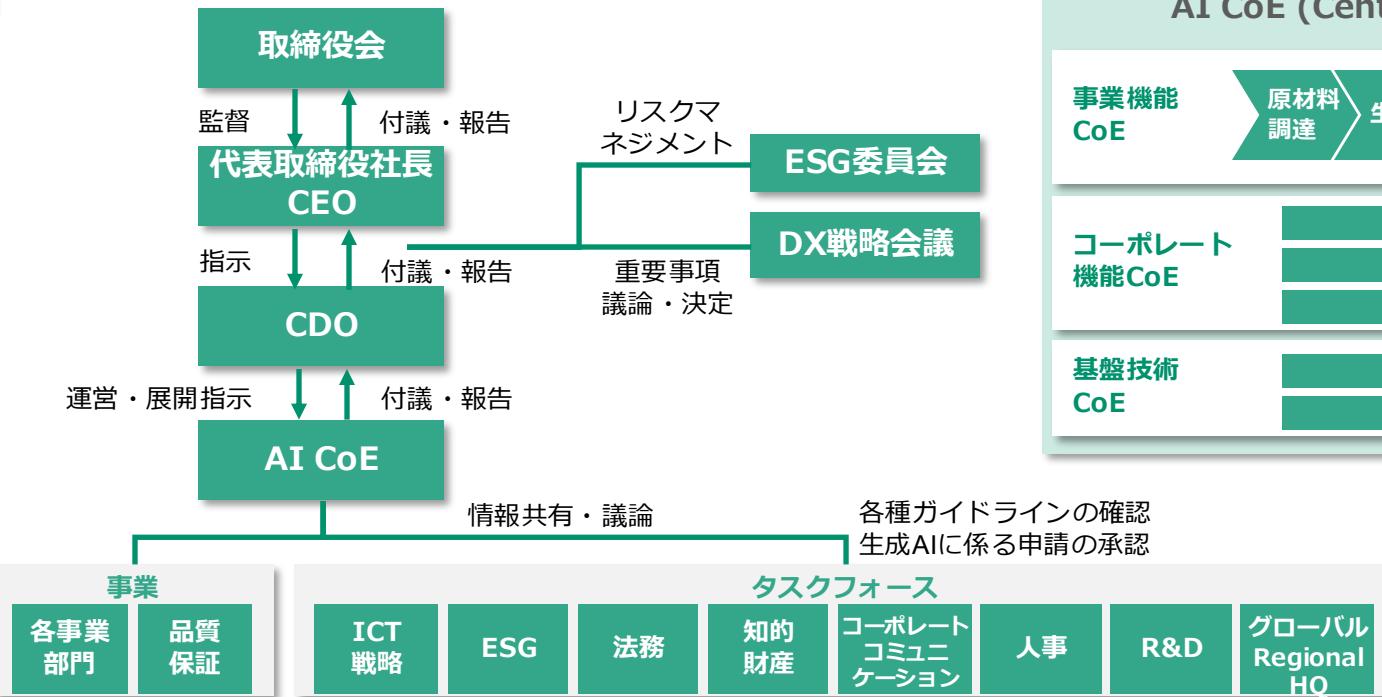
DXの中心的なドライバーがAIになりつつある中、「人間中心」「目的重視」の方針に基き、AI技術を使い分け/組み合わせて活用しつつ、AIエージェント活用へ取り組みを進化



信頼性と責任あるAI活用に向けたAIガバナンス

CEO配下組織の「AI CoE」を中心に、ESG（リスク管理部門）や法務などの様々な部門や各地域本社と連携し、グローバル全社でAIガバナンス体制を強化

AIガバナンス推進体制

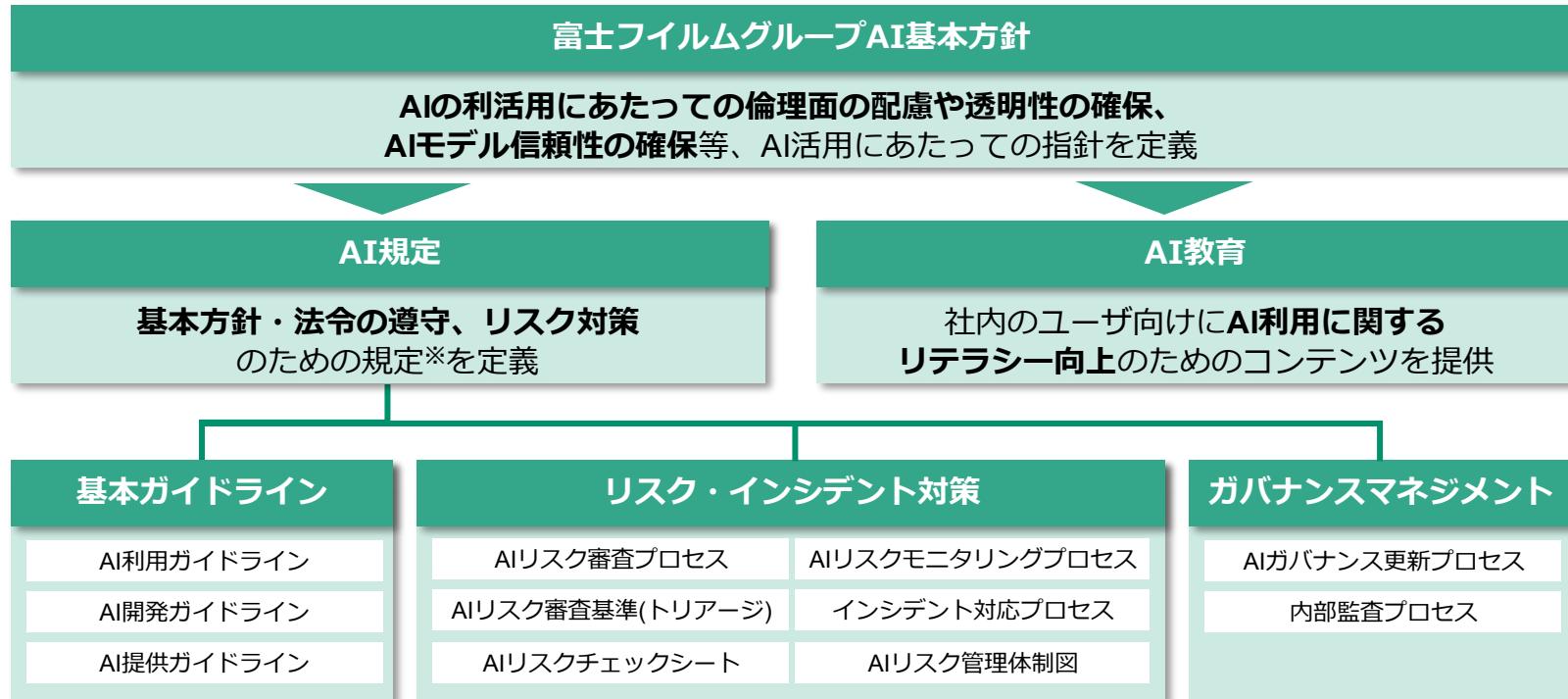


AI CoE (Center of Excellence)



AIガバナンスの取り組み

2020年に定めたAI基本方針に基づき、規定整備やユーザ教育を推進
技術進化に合わせ規定やプロセスを更新、生成AI製品搭載に向けたガイドラインも制定済み



*策定中・策定予定も含む

生成AI活用の取り組み全体像

様々な領域で生成AIを活用、順次製品リリースも開始
全社展開しているチャット型生成AI利用環境に加え、エージェント型生成AIの利用も開始

本番稼働中

調達	生産	出荷・物流	営業・マーケティング	サービス
原材料価格情報探索	製造工程・計画生成AI 保全業務支援エージェント 生産工程分析エージェント	需要予測・誤差分析	入札書作成支援 見込み顧客分析支援 トレーニングコンテンツ生成	サービスエンジニア支援 コールセンター業務最適化 品証業務支援AI
研究開発	化合物生成支援	市場・論文・特許リサーチエージェント	レポートQ&A作成	
新規製品企画	BI民主化支援	医療関連文書作成支援		
コーポレート	経営コックピット	各種原稿生成・翻訳	文書校閲AI 質疑応答支援AI	バックオフィス業務支援
全社共通	エージェント型生成AI利用環境	チャット型生成AI利用環境	議事録生成・各種文書要約 AIチャットボット	コーディング支援エージェント

※上記は当社取り組み事例から抜粋したものです。また、一部検証中の内容を含みます

FUJIFILM Holdings Corporation

2. AI事例

～コーポレート領域～

全社的な生成AI活用： AIChat & AIHub

**自社内製開発のチャット型生成AI利用環境は全社横断で積極活用
様々な業務が効率化・高質化し多面的な効果を創出、業務時間を40万時間/年*削減見込み
新たにリリースしたエージェント型生成AI利用環境の利用も加速**

*2025年6月実績値より試算

チャット型生成AI利用環境「Fujifilm AIChat」

- 2025年6月にグローバル約7万人に展開完了、MAU2.1万人
- 非IT職種での利用拡大が顕著
- グローバルで約40万時間/年の業務時間削減見込み
- 様々な業務において効果が可視化されており、例えば、翻訳・校正業務では国内で年間最大1.2万時間削減する試算
- 経理部門や知財部門等の専門的業務においても効率化・コスト削減が実現



エージェント型生成AI利用環境「Fujifilm AIHub」 New

- 2025年7月に国内約3.6万人に展開完了、年度内グローバル約7万人に展開完了予定
- 非IT部門含む一般従業員が自身の目的に合わせて、必要なAIエージェントを作成しており、既に1,000件を超えるエージェントが稼働中
- 作成したAIエージェントは組織内で共有
- 社内共通プラットフォームとのAPI連携



全社的な生成AI活用：ボトムアップ活動

従業員が日常業務で生成AIなど最新デジタル技術を自然に活用できる環境を整備
生成AIを活用したコンテストや勉強会など、全社的なDXのボトムアップ活動が活発化

All-Fujifilm 生成AIコンテスト

CEOの発案で2025年3月に実施
テーマ「笑顔を増やすためのアイデアを創出する」

- グローバルから200件以上の応募
- 優勝案件は実用化に向けてプロジェクト化



生成AI勉強会

生成AI活用促進のためAI CoEと連動し、社内技術
や最新リリースのキャッチアップをサポート

- 2023年から継続開催し、延べ1万人以上が参加

AI / DX コミュニティ

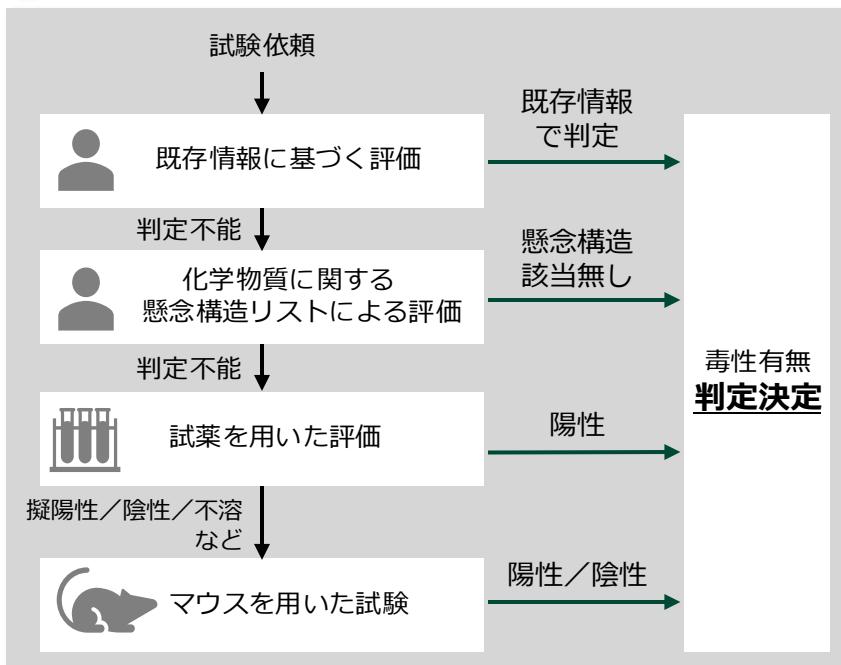
従業員同士のAI/DXに関する情報共有・疑問解消
など組織を越えた学び合いを実施。
AI CoEによる生成AI利用環境の利用サポート

- 各コミュニティそれぞれ約1万人の従業員が参加

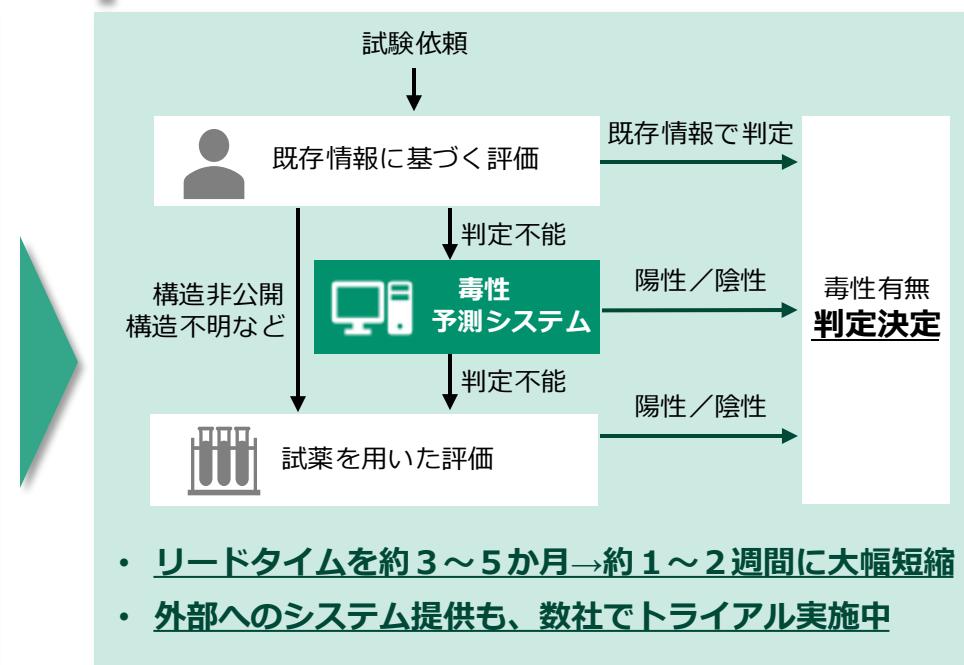
AI事例：AIを活用した新規化学物質の「毒性予測システム」

独自のAI技術を活用して開発した「毒性予測システム」により、
社内安全性評価業務の皮膚感作性試験で動物実験廃止を実現、工数を従来の1/10に大幅短縮

従来の皮膚感作性試験



毒性予測システム導入後



- ・リードタイムを約3～5か月→約1～2週間に大幅短縮
 - ・外部へのシステム提供も、数社でトライアル実施中

AI事例：AIを活用した新規化学物質の「毒性予測システム」

2つのAIモデルと、当社安全性評価センターが長年蓄積してきた豊富な知見で、幅広い化学物質に対するリスク予測が可能に。

今後はOECDテストガイドライン*収載により、国際的な評価基準としての認定を目指す

2つの異なるAIモデルを活用

	構築方法	シミュレーション内容
知識型	化学物質の <u>毒性に関する公開情報</u> や当社研究者の <u>専門知識</u> を基に構築	化学物質が生体内で <u>どのように分解や構造変換が起こるか</u> 、 <u>タンパク質とどのように結合するか</u> を予測
機械学習型	<u>過去の試験データ</u> を基に構築	化学物質による <u>リンパ球の活性化や増殖</u> 、 <u>炎症反応の有無</u> を予測

当社安全性評価センターの豊富な知見

- ・ イメージング材料をはじめとした多様な化学物質の皮膚感作性に関して、豊富な知見を長年にわたり蓄積
- ・ これらの専門知識を活用し、国内屈指の皮膚感作性評価の知見を搭載

*OECD（経済協力開発機構）が化学物質の特性や安全性を評価する試験方法を国際的に共通化することを目的としたガイドライン。化学物質やその混合物の物理化学的性質、生態系への影響、生物分解および生物濃縮、ならびにヒト健康影響などに関する知見を得るために国際的に合意された試験方法が収載されている。

3. メディカルシステム事業におけるAIの取組み

メディカルシステム事業におけるAI技術投入領域

メディカルシステム事業では、2018年のREiLIブランド立ち上げ以後、
医用画像領域のAI開発・適用から開始し、様々な領域に展開範囲を拡大

医用画像領域 画像AI

高画質化技術（デノイズ・高解像度化等）
臓器セグメンテーション技術（臓器認識/抽出AI）
コンピュータ支援診断（病変検出・計測支援）

診断レポート領域 画像と文字データ間AI

読影レポート構造化AI（所見用語抽出AI・事実性判定AI・関係性抽出AI）
医用画像と所見文の紐づけAI（臨床データの二次活用促進）

臨床情報領域 文字データAI

医療スタッフ支援AI
(各種サマリ作成支援AI・臨床書類作成支援AI・患者リスク予測AI)

医療機器サービス領域

サービス支援AI（サービスエンジニア支援・故障予兆AI）
コールセンター支援AI

教育・開発支援領域

学術・教育支援（クラウド型AI技術開発支援サービスによる医師のAI研究・教育支援）
社内開発推進

医用画像領域

SYNAPSE SAI viewer用 画像表示プログラム
販売名：画像診断ワークステーション用プログラム FS-V68型
認証番号：231ABBZX0028000
製造販売業者：富士フイルム株式会社

(*)2025/3末段階

高画質化

Image Quality Improvement

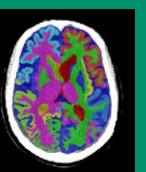
視認性向上・低被爆を支援



臓器セグメンテーション

Anatomy Segmentation

解剖学的構造の把握を支援



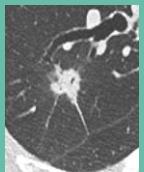
製品搭載



ワークフロー効率化

Workflow Streamlining

レポート作成を支援

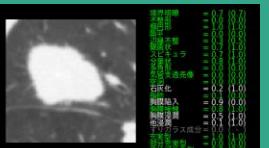
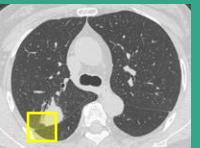


<所見>
右肺上葉S2に21mm大の分葉状充実性結節を認め、辺縁は鋸歯状でスピキュラや胸膜陷入像を伴っています。内部に気管支透亮像を認めます。

コンピュータ支援診断

Computer-Aided Diagnosis

病変の検出・計測を支援



国内880施設で稼働中 (*)

次世代AI読影支援
プラットフォーム

SYNAPSE
SAI viewer

SYNAPSE
SAI Report



Powered by



REiLI

高度な医療AI開発技術力と、それを搭載する病院の基幹ITインフラをもつ当社だからこそ、
迅速に病院の画像読影環境のDX化が可能

診断レポート領域

読影レポート内の様々な臓器・疾患に関する記述を全て同一の形式へ変換する、
独自の自然言語処理技術「読影レポート構造化AI」を開発。

読影レポート（例）

2022/10/15と比較。

左肺S6に径2.0cm大の
境界明瞭な結節が認められ
ます。肺転移が疑われます。
気管分岐下に短径1cm未満
のLNsが認められ、増大し
ています。

肝臓のS3/4に径6cm大の
低吸収域を認めます。

腹水貯留なし。

経過を見て下さい。

① 所見用語抽出AI

所見用語を抽出

- ① 病変
- ② 診断
- ③ 解剖
- ④ 性状
- ⑤ 計測値
- ⑥ 経時変化

2022/10/15と比較。

左肺S6に径2.0cm大の
境界明瞭な結節が認め
られます。肺転移が疑
われます。
気管分岐下に短径1cm
未満のLNsが認められ、
増大しています。

肝臓のS3/4に径6cm大
の低吸収域を認めます。

腹水貯留なし。

経過を見て下さい。

構造化AI

② 事実性判定AI

事実性を判定

- 肯定 (+)
- 否定 (-)

2022/10/15と比較。

左肺S6に径2.0cm大の
境界明瞭な結節が認め
られます。肺転移が疑
われます。
気管分岐下に短径1cm
未満のLNsが認められ、
増大しています。

肝臓のS3/4に径6cm大
の低吸収域を認めます。

腹水貯留なし。

経過を見て下さい。

③ 関係性抽出AI

用語間の関係性を解釈し、
内容を病変ごとに整理



独自開発した同義語辞書
(9万種類、28万語)により、
表記ゆらぎを吸収

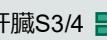
構造化結果

病変	性状	診断	解剖	計測値	変化
結節[+]	境界明瞭[+]	肺転移性腫瘍[+]	左肺S6	径2.0cm大	
リンパ節[+]					気管分岐下
低吸収域[+]					短径1cm未満
腹水症[-]					増大[+]

参考

※ChatGPTによる構造化処理結果

同義ではない



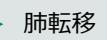
肝臓S3/4

関連なし



肝S3/4

結節



肺転移

構造化
成功率

45% → ChatGPT4o

79% FF独自技術

※バージョン(or プロンプト)により挙動が一意に定まらないことがあります。

日々の読影業務で院内に蓄積される放射線科医の読影知識を構造化して保存
将来の更なるDX化の原資としての利活用を想定

臨床情報領域・医療機器サービス領域

イメージング・インフォマティクスラボとメディカルの協働

事業運営・営業支援

・事業コックピット

→世界各国の月次売上データをAIが解析、レポート作成、課題の抽出。

・営業コックピット

→営業活動に関するデータを一元管理、生成AIによる入札仕様書を代表とした営業資料の草案作成。

・在庫管理/削減

→医療機器の生産計画をAIにより最適化、部材調達も同計画に基づき効率化。

コールセンター支援

・コールセンター支援AI

→カスタマーからの問い合わせ内容をリアルタイム自動文字起こし。
→上記情報を元に、LLMベースのナレッジ検索ツールを使い、対処法案を即時提案。

→同時に根拠となる元資料（取扱説明書、サービスマニュアル、過去顧客対応報告書等）も提示可能。

→問い合わせ終了後に要約し、報告書作成を支援。

サービス支援

・サービスエンジニア支援AI

→社内に蓄積された「過去の問い合わせ履歴」「FAQ」「マニュアル・各種規定文書」を知識源とし、世界各国のサービスマンが不具合原因究明に利用可能なLLMベースのチャットツール。

・医療機器の故障予兆AI

→CT/MRI/マンモ等の医療機器の重要保守パーツの故障を予測。実際にパーツが故障する前にアラート、事前交換の促進。

医療スタッフ支援

・外来患者向け転倒リスク予測AI

・参照支援サジェストAI機能

・既読未実施防止AI

・入退院支援AI / 診療情報提供書作成支援

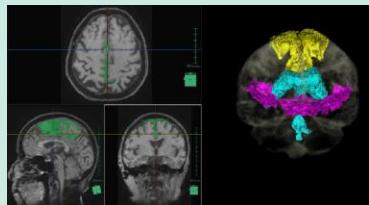
・退院サマリ/看護サマリ作成支援

コーポレート領域の基盤AI技術をメディカル領域へ応用、効率的なDX化を実施

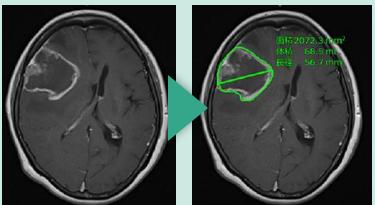
教育・開発支援領域 (SYNAPSE Creative Space)

学術・教育支援

- 医師のAI開発を支援。現在累計50施設、約100名の医師が利用。いくつかの研究成果は社会実装済。



VINCENT搭載



SAI Viewer搭載

- 医科系大学や専門学校にて、実機を用いたハンズオン講義を多数実施。約1000名の医療系学生が体験。医療従事者の医療AIに関する知識向上に貢献。

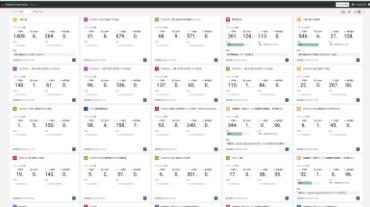


社内外のAI開発基盤として、活用の場を拡大

製品名：3D画像解析システム SYNAPSE VINCENT
販売名：富士画像診断ワークステーション FN-7941型
認証番号：22000BZX00238000

社内開発推進

- 社内で開発中の複数のAI研究開発プロジェクトのインフラで活用。グローバルの開発拠点間での共同AI開発も推進。



- 各国医療機器AI機能の法規制申請のための読影試験等の医用画像共有インフラとして利活用。



FUJIFILM
Value from Innovation

富士フィルムグループ
DXコンセプト動画



<https://youtu.be/uxAKDlKvTP0>